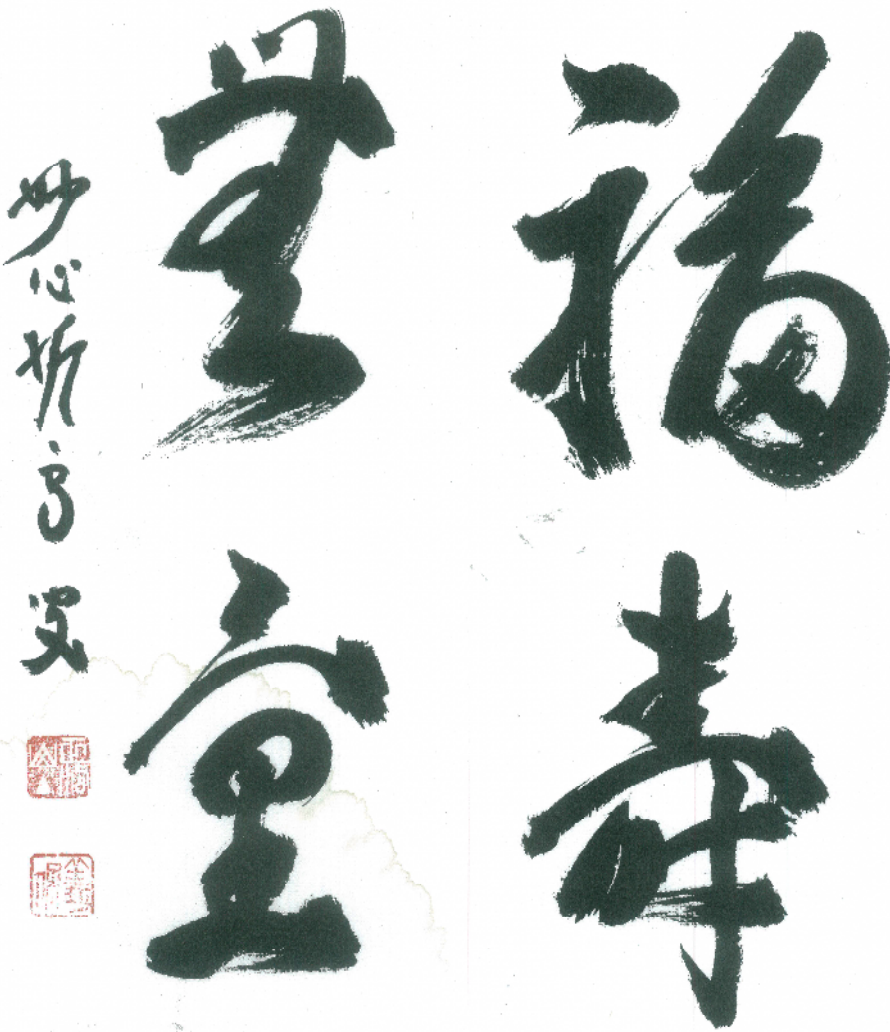


圓福寺報



圓福寺報 第六十八号
 平成二十八年一月一日発行
 発行者 臨濟宗妙心寺派 圓福寺
 千葉市稲毛区六川町三七五 TEL (二五二) 九一八一
<http://www.chiba-enpukuji.com>
 E-mail: oshou@chiba-enpukuji.com

妙心寺派元管長
 擔雪軒西片義保老師ご染筆「福壽無量」

寺説	目次	頁
「再建に向けて」		2
寺の事件簿		3
「平成大火に遭遇」		3
若き和尚の		10
四国遍路日記(その一)		10
続・寺から半里 (番外編)		16
～わが町かど探索～		16
園生町 熊倉 浩さん		16
六川花園幼稚園 園だよりから		19
「アナログ体験」		19
「機械の目、大人の目」		20
平成二十八年年忌表		21
土曜会・写経会		21
平成二十七年日録抄		22
平成二十八年行事予定		23
花園会新年会のご案内		24

寺 説

圓福寺再建に向けて

圓福寺にとっては未曾有の災難に遭った年も明け、新年を迎えました。

檀信徒の皆様には、多大なご迷惑をおかけして大変申し訳ありませんでした。そして、ご心配していただき、本当にありがとうございます。

結局のところ、火災原因は解明できず、出火元を墓地の手桶置場とする不審火と警察より連絡があり、被害届も提出しないことといたしました。再発防止のために、防犯カメラを設置する応急措置だけは済ませました。

それでも日にちだけは経過し、お寺の年間行事の開催もどうなることかと心配いたしました。なんとか最低限勤めることができたのではないかと、胸をなでおろしております。

早々にお知らせのお手紙を出せたのは、幼稚園のパソコンにも各種名簿や過去帳のデータをバックアップしていたことによりです。お施餓鬼も、幼稚園があつたことで、ホールを使って執り行うことができました。全員椅子席で、採光豊かな場所、舞台上での法要の様子も見ることができ、怪我の功名だったかもしれませぬ。また、被災を免れた「大師堂」でご法事をするこ

もできております。

入寺以来毎週木曜日に続けてきた坐禅会も、一回休んだだけで、場所を市原別院耕雲寺に移して続けております。カエルやセミ、鳥の声を耳にし、時にはイノシシの鳴き声まで耳にしながらの坐禅は、「安禅は必ずしも山水を須(もち)いず」とはいうものの気持ちよく坐れ、これも怪我の功名でしょう。また、耕雲寺に小さいながらも寺務所を建てていたことで、住む場所にも困ることはありませんでした。

これまで、圓福寺、幼稚園、耕雲寺と仕事に追われていましたが、結果的にはリスクが分散されていたのだと思っています。今後は、伽藍焼失によって、それらの仕事に加え、圓福寺再建の大事業が加わることになってしまいました。

各方面から建設関係の営業が舞い込んで来るのに対して、じつくり時間をかけて考えていくからと言っておりました。檀信徒の方々からは、再建の進み具合はどうですかなどと聞かれることも多く、中には、もう工事は始まったのですかなどと気の早い方もいらつしやいました。そうこうしているうちに、役員さんたちから、社寺建築は時間がかかるだろうからそのんびりもし

ていられないだろうと尻を叩かれ、焼失ショックから重い腰をあげつつあります。

現在、今までの圓福寺の建物の用途、年間行事や各種行事、その参加人数、駐車台数などのデータをまとめ、どれぐらいのどのような建物が必要かを整理し、お寺としての概案を作成いたしました。それをもとに、社寺建築専門の設計士さんの選定をする運びとなっております。設計士さんが決まり、伽藍・建物の図面ができあがり次第、改めてお知らせさせていただきますと存じます。

また、檀信徒の方からは、寄付のときはおっしゃって下さいとのお申し出もありますが、お寺で建物を改修したり新築する折には寄付が欠かせなく、みなさんご心配のことと思います。圓福寺では、これまでに内陣・大師堂・書院・玄関などの改修・新築をいたしてまいりましたが、今まで寄付は募ってまいりませんでした。

書院新築の折には、役員さん中心に建築賛助金としてご芳志を募らせていただきましたが、その折の趣旨を踏まえて、出来る限り多くの方のご賛同とご寄附が可能な形を考えて勧募させていただきたいと考えております。再建費用が決まり、資金計画立案後のご案内になるかと存じます。

ラグビーの日本代表が強豪南アフリカを破った戦術を「ジャパンウェイ」というのですが、圓福寺再建の寄付勧募も檀信徒の皆さんのできるだけご負担にならないような「圓福寺ウェイ」が実現できればと思っております。その折には、なにとぞご協力のほどを切にお願い申し上げます。

寺の事件簿

平成大火に遭遇

大師堂を除く伽藍全焼

平成二十七年三月三十一日に発生の大災により、圓福寺の伽藍は灰燼に帰してしまつた。

広く目を転ずれば、全国の寺院で火難等に遭わずに済んでいるものはまれである。遠く戦国の世に戦乱の火を放たれ、近くは第二次世界大戦の戦火に焼きつくされたものもある。また、燈燭が欠かせない寺院の宿命として、失火によるものも数えきれないであろう。記憶に新しくは、東日本大震災の地震・津波で倒壊、流失という自然災害もある。

それら被災ののち、古人は悲憤や悔悟を胸に口伝や墨書による記録をされ、後世に伝えようとした。胸に秘すものは違わずにしろ、現在では写真や印刷が身近で簡便になった故、さらに詳細を伝えることができるようになった。

火災状況は既報につき省略するが、ここに被害状況のみを掲載し、寺史の一部として記録にとどめ、再建への足掛かりとする。



本堂間口約八間、奥行五間、すでに改修済みの内陣は奥行三間だった。
内陣改修工事の折に、耐震補強した鉄骨が、向拝部分を崩壊させず、放牛窟系原圓応老大師ご染筆の寺号を彫った額も残った。



圓福寺報

第二十五号
平成十年七月十五日
発行所 圓福寺
〒525-0218 福知山市大川町三七五
TEL 057-521-118

グうびア特集

「圓福寺 平成の大改修」

目次は、次のページにあります。



新しくなった玄関まわり

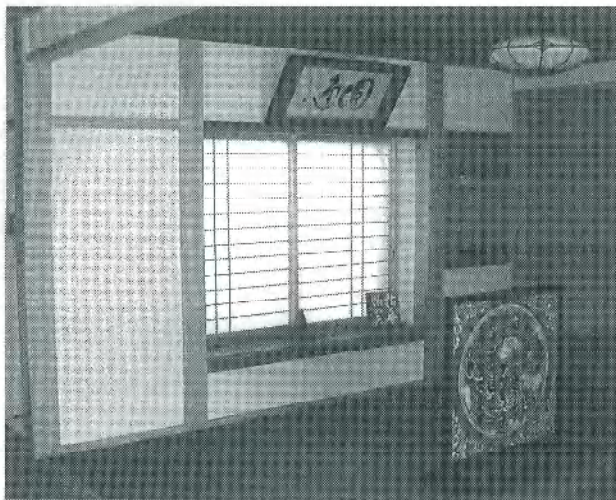
決して敷居は高くありません。敷居のところに段差をなくしてありますから・・・。

何枚か掲載している白黒のものは、平成十年に玄関・書院・廊下等の改修を掲載した寺報。
玄関手前の池の鯉は、火災の影響かまたは消火の際に全滅した。また、庭のサツキも消火活動により壊滅、赤松・高野マキ・百日紅も枯死した。
掲載している写真のうち、焼失前のものは、本山からの巡教で来山された五葉光鐵師が撮影したもので、火災後の写真は福田和夫さん撮影ものを拝借した。



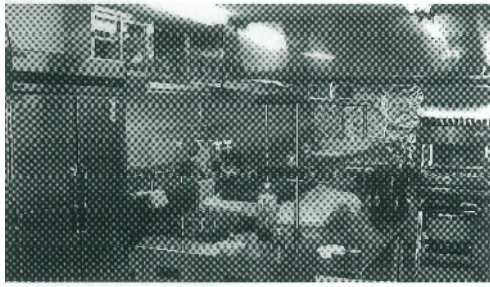
玄関を入ったところ

正面の額は、妙心寺派管長松山寛恵老大師ご染筆「圓通」。右側に安置してあるのは、章駄天様。

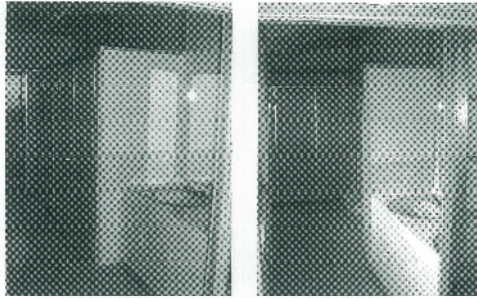


【右】本堂入口の一間の廊下。突き当りが書院厨房の入口。ふすまの上には、四国あるき遍路の写真が掲示されていた。

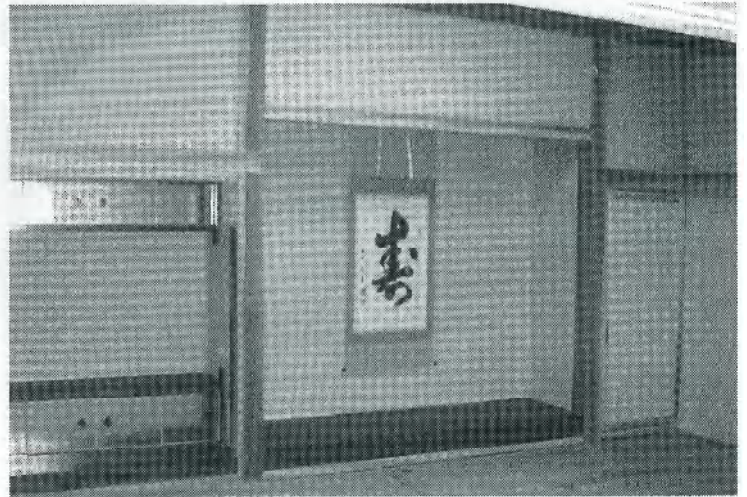




本格的厨房 葬儀・法要、各種花園会行事などに十分対応できる厨房を作りました。

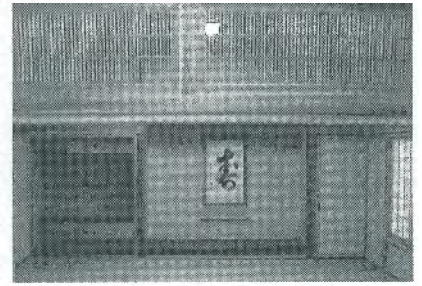


男女別お手洗い 宿泊も考慮し、大型洗面台も完備。もちろん機能だけでなく、意匠面でもお寺らしさを受けています。



書院

十五畳二間。ひすまを取り払うと、三十畳の大広間になります。一間半の床の間は、枋の無垢材を使用しています。床脇の地袋・天袋の建具は、時岡俊雄さんが作って下さった箔押し様の材料を使わせていただきました。板は、すべて樺の無垢板です。下の写真に写っている欄間は、玄関同様、岩手の鈴木建具店様謹製のもです。シンプルな日本建築で仕上がっていますが、空調完備で、照明も調和がとれたものになっていて、落ち着きを感じさせてくれます。掛け軸は、野火止平林寺の系原園庵老大師ご染筆の「壽」です。



書院の様子。檀信徒の法要時だけでなく、禅童会の子どもたちや園児たちも使っていた。厨房は、法要時はじめ、土曜会・年越し・地藏盆・禅童会などフルに活用されていた。左は、厨房入口の「かまど神」、右は出火元の墓地手桶置場。





釈迦三尊像を
本尊とする内陣
は、すでに改修
されており、そ
の折に三尊像も
新調。貴重な達
磨大師像や檀信
徒位牌類、仏具
類もことごとく
焼失した。



彼岸や施餓鬼
には、二百五十
人以上の参拝者
を収容できた本
堂。エアコン完
備で、襖には、
写経講師斎藤加
代子さんの般若
心経が表装され
ていた。



【下】焼け
跡で、本堂
納骨堂に預
けられてい
たお骨を
拾った様
子。その
後、合同法
要をした。



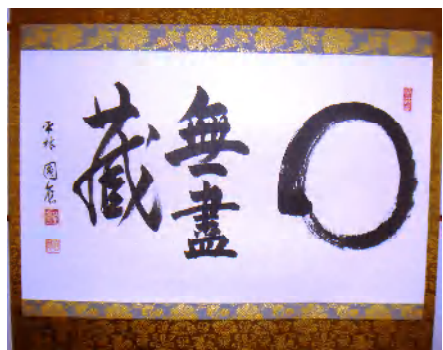
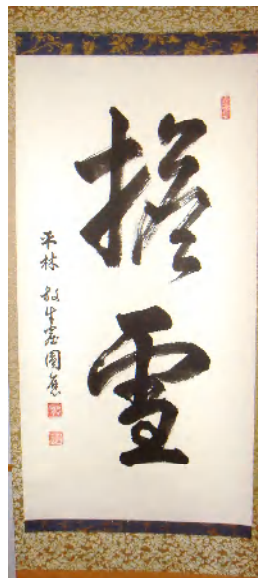
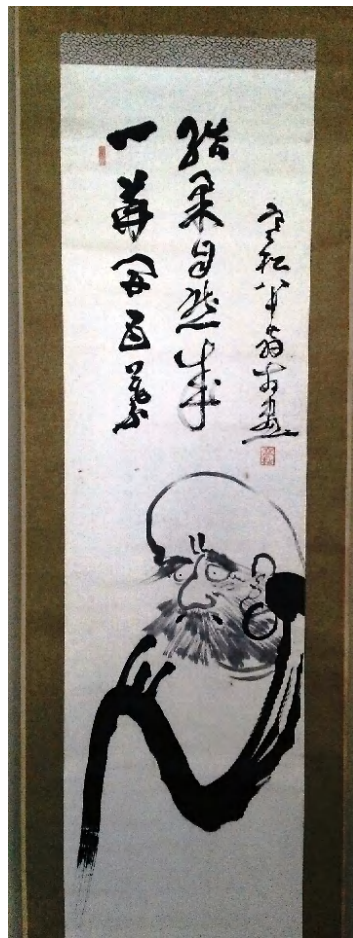


焼失は免れたが、焼損の
 激しい墨跡類。焼損がなく
 とも、消火の水で痛みがあ
 り、修復を余儀なくされ
 た。



罹災物件明細書、動産(家財・立木等)			
品名	焼水破の別	数量	
仏像	釈迦三尊像	焼	1組
	達磨大師像	焼	1体
	観音菩薩立像	焼	1体
	地藏菩薩立像	焼	1体
	釈迦苦行像	焼	1体
	文殊菩薩立像	焼	1体
位牌	薬師如来像	焼	1体
	釈迦如来像	焼	5体
	今上・大檀那・火徳	焼	3基
	歴代位牌	焼	10基
掛け軸	祖師位牌	焼	4基
	檀信徒位牌	焼	多数
掛軸	涅槃精舎戒名位牌	焼	1基
	十六善神	焼	1巻
掛軸	管長・老師墨跡	焼・水	150本
	涅槃図	焼	1本
掛軸	前机	焼	1台
	中央香台	焼	1台
掛軸	常夜灯	焼	1対
	常花	焼	1対
掛軸	水引・戸張	焼	3流れ
	壇引き	焼	3間
掛軸	内陣水引	焼	3組
	三角打敷	焼	1枚
掛軸	拜敷	焼	
	黒檀見台	焼	1台
掛軸	櫻製見台	焼	1台
	香炉・燭台・花立	焼	4組
掛軸	献茶湯器	焼	1対
	高坏	焼	2対
掛軸	柄香炉	焼	1基
	曲録	焼	1台
掛軸	三宝	焼	8台
	櫻製三宝	焼	1台
掛軸	座卓	焼	20台
	座布団	焼	50客
掛軸	施餓鬼棚	焼	1台
	塔婆立	焼	2台
掛軸	毛氈	焼	30間
	大聲	焼	1基
掛軸	小聲	焼	1基
	大玉鱗	焼	1基
掛軸	法鼓	焼	1基
	法鼓台	焼	1台
掛軸	櫻製経机	焼	1台
	賽銭箱	焼	1台
掛軸	客間丸卓	焼	1台
	客間箆笥	焼	1台
掛軸	法衣箆笥	焼	2棹
	玄關幕	焼	1張
掛軸	施餓鬼幡	焼	1式
	四十九院幡	焼	1式
掛軸	五色幕	焼	11間
	引金	焼	3本
掛軸	鐵法太鼓	焼	1張
	鏡鈆	焼	2鉢
掛軸	拂子	焼	1本
	朱扇	焼	30握
掛軸	中啓	焼	5握
	出頭数珠	焼	10本
掛軸	看経数珠	焼	5本
	袈裟	焼	10肩
掛軸	夏出頭衣	焼	5肩
	冬出頭衣	焼	5肩
掛軸	夏略衣	焼	3肩
	冬略衣	焼	3肩
掛軸	雲水衣(夏・冬)	焼	4肩
	単布団	焼	10組
掛軸	書院厨房機器	焼	1式
	書院製水機	焼	1台
掛軸	プロジェクター、D	焼	1式
	書籍	焼・水	多数
掛軸	その他の什器備品	焼・水・破	100台
	茶道具	焼	多数

不動産(建物)					
建物名称	建物構造	屋根	外壁	階数	建築面積
本堂	建物構造	瓦葺	漆喰	1階	232.28㎡
	延べ面積	3.3㎡(坪)単価	総金額	建築(取得)年月日	
	232.28㎡	不明	不明	昭和4年	
	書院				
書院	建物構造	瓦葺		1階	134.15㎡
	延べ面積	3.3㎡(坪)単価	総金額	建築(取得)年月日	
	134.15㎡	114,815円	99,888,675円	平成10年9月25日	
	庫裡				
庫裡	建物構造	瓦葺		2階(2階部分)	153.80㎡
	延べ面積	3.3㎡(坪)単価	総金額	建築(取得)年月日	
	153.80㎡	114,815円	書院総額に含む。	平成10年9月25日	
	住宅				
住宅	建物構造	瓦葺		一部2階	101.86㎡
	延べ面積	3.3㎡(坪)単価	総金額	建築(取得)年月日	
	146.57㎡	不明	不明	昭和47年頃	
	離れ				
離れ	建物構造	瓦葺		2階(1階部分)	59.46㎡
	延べ面積	3.3㎡(坪)単価	総金額	建築(取得)年月日	
	59.46㎡	不明	不明	昭和62年	



焼失した墨跡の、ほんの一部。二度と手に入れることのできない、臨濟宗各派管長、諸老大師の墨跡ばかりである。

3月12日(火) 曇のち時々晴

6日目

6時 開静
 6時30分 粥座(朝食)
 7時30分 井戸寺出立
 8時30分 国道一九二号線治いを托鉢
 11時30分 斎座(昼食)
 12時30分 引続き、徳島駅前通りまで托鉢
 15時30分 「若松旅館」着
 右足が大分むくんでいる。シップ薬を買ってきて張る。
 薬石までの間にわらじを編む。ひもが細いので時間がかかる。
 18時30分 薬石(夕食)
 19時 開浴(入浴)
 20時30分 解定(就寝)

把住 9,070円、放行 4,440円

把住(はじゅう)：収入のこと。托鉢の浄財など
放行(ほうぎょう)：支出。納経料、宿泊代など

3月11日(月) 曇のち雨

5日目

6時 開静
 6時30分 粥座(朝食)
 7時 柳水庵出立
 7時30分 一本杉庵参拝
 8時45分 十二番焼山寺参拝
 9時 焼山寺出立
 9時30分 杖杉庵参拝
 10時 鍋岩の田中食堂でお弁当のお接待
 11時30分 民宿「久保」でうどんのお接待
 耳の遠いおばあさんでまいった。うどんをお接待してくれたので、お仏壇でお参りをさせてもらった。
 15時40分 十三番大日寺参拝
 16時40分 十四番常楽寺参拝
 17時50分 十五番国分寺参拝
 18時20分 十七番井戸寺着、投宿
 18時45分 開浴(入浴)
 薬石(夕食)

44.8km

把住 0円、放行 4,700円

字に書くとき短い一日だったが、随分長い一日だった。朝七時から夕方六時まで、ほとんど歩き通しの一日。
 普段の生活で歩くといっても、時間的に言ってせいぜい午前中で済むので、午後から歩く分は普段はない分である。だから、感覚的に一日が長い。今日は、ついに四十kmの太台に乗った。四十四、八km。
 明日は再び徳島市内。托鉢三昧の日。

3月13日(水) 曇

7日目

6時 開静(起床)
 右足の腫れがひどく、今日は旅館に逗留することにする。不本意だが、とてもまともに歩けない。昨日もすいぶん無理をしたが、今日無理をすると後が続かなくなりそうなので、きちんと休養をとって、これからあと頑張ろう。
 明日は、十八番まで托鉢しながらいくことにしよう。
 20時30分 解定(就寝)

把住 0円、放行 4,000円

3月14日(木) 雨のち曇

8日目

6時30分 開静(起床)
 8時 粥座(朝食)
 右足の腫れはほとんどひいていない。歩くのが痛い。今日は出かけることにする。旅館の人にシップ剤をいただいた。肌色のうすいシップ剤なので、これを貼って歩くことにする。
 今日雨だ。ほとんど一日おきに雨の感じである。
 9時 「若松旅館」出立
 眉山ロープウェイ口から二軒屋まで托鉢
 13時30分 恩山寺入口にて斎座(昼食)
 14時 十八番恩山寺参拝
 今まで札所を回ってきたが、考えてみると1カ寺にいた時間なんてほんのわずかだ。本堂と大師堂にお経を詠んで、ご朱印を書いてもらって、これではスタンプ集めに変わりない気がする。八十八ヶ所は歩く励みと思っはいるが、それにしてもスタンプ集めでは情けない。
 14時20分 恩山寺出立
 16時 立江町托鉢
 16時20分 十九番立江寺参拝、引続き托鉢
 17時 旅館着

把住 3,080円、放行 5,310円

今思えば・・・修行道場を出て約三年。まだ現役のつもりで雲水と同じペースで歩き始めたよう。いきなり三十キロ近く歩いたり、四十五キロも歩くなんて、今思えば無謀だったかもしれない。でも、ゆっくり景色を見ながらなんて修行時代にはご法度でしたから、わき目も振らずに歩いたのです。
 そのせいで、日誌の初めのころには、「痛い」という言葉が頻繁にみられます。

四国八十

30年前の 四国のるき遍路の旅

9日目

3月15日(金) 曇ときどき晴

6時 開静(起床)
 6時15分 粥座(朝食)
 6時30分 旅館出立
 10時 二十番鶴林寺参拝
 11時 大井集落通過
 11時50分 休憩
 13時20分 二十一番太龍寺参拝
 13時30分 斎座(昼食)
 17時 二十二番平等寺参拝、投宿
 18時 薬石(夕食)、解定(就寝)
 平等寺さんは宿坊をしていないとのこと。ご好意で泊めてくれた。今夜は相部屋の人がいる。

30.7km

把住 1,000円、放行 1,750円

10日目

3月16日(土) 曇

6時 開静(起床)、朝課、朝課掃除
 手がかじかんで言うことをきかない。
 7時 平等寺出立、托鉢
 10時 国道55号線に出る
 足が痛い。歩くのが遅い。
 12時30分 由岐着、斎座(昼食)
 13時 15時まで由岐で托鉢
 18時 恵比寿浜着
 看板を頼りに磯釣りの民宿をあたるが、全部断られた。仕方ない。日和佐まで歩くことにする。
 19時 日和佐着、民宿泊
 日和佐についてすぐ見つかった。本当にありがたい。
 21時 解定(就寝)

19.7km

把住 4,085円、放行 850円

11日目

3月17日(日) 豪雨

7時 開静(起床)
 本日、朝から強風と大雨のため休息とした。
 昨日、だいぶ無理をしたので丁度いい休息日だ。明日は、日和佐の町内を托鉢して、牟岐に向かうことにする。
 昨日は海沿いを歩いたが、四国の海岸という桂浜に代表される砂浜を想像していたのに、岩手の海岸に負けぬ断崖絶壁だ。しかも、黒潮の風がまともに吹き付けるところだ。太陽が輝き、青い空青い海は昨日は全く関係なかった。厳しい厳しい四国の海だ。
 19時 薬石(夕食)、開浴(入浴)
 21時 解定(就寝)
 夜、窓の外には星が見える。屋間の雨が嘘のようだ。明日、晴れることを祈って寝よう。

把住 0円、放行 8,600円

12日目

3月18日(月) 晴

6時30分 開静(起床)
 7時30分 粥座(朝食)
 8時30分 「大浜荘」出立、日和佐で托鉢
 10時20分 二十三番薬王寺参拝
 10時30分 薬王寺出立、托鉢
 11時 托鉢を終える
 今日は天気がいい。絶好の行脚日和だ。
 17時 鯖大師本坊着、投宿
 開浴(入浴)
 途中牟岐の町もすこし托鉢したが、反応がないのでやめ、鯖瀬まで足を延ばした。
 20時 解定(就寝)
 宿泊代をお接待してくれる。

19.6km

把住 2,650円、放行 500円

日和佐からは海岸沿いの南阿波サンラインというところを歩こうと思っただが、自動車専用道で通れなかった。そのため、山の中の国道を通ることになる。海から一歩内陸に入ると全くの山だ。
 牟岐から八坂八浜に出るといかにも海という感じがやっとする。日差しも気のせいか強く感じられ軽く汗ばむ。
 今日のは左足が痛く、はじめ踵をつけなかった。休みすぎかもしれない。それでも、しばらく歩くとうちに痛みを感じなくなるから不思議だ。人の体はよくできたものだとつくづく感心する。

今思えば……十六日目に、托鉢の途中で海岸で休んでいたら、赤ちゃんをおんぶしたおばさんが声をかけてくれて、初めて民泊のお接待をいただく。「お大師さんが来てくれた。」と家族で歓待してくれたのには驚きました。翌朝、そのお宅の子どもたちの登校と一緒に出立し、小学校近くで子どもたちの「また来てねーっ。」の声に見送られて安芸を後にしたのでした。
 あの子どもたちも、もう四十過ぎでしょうか？今度、あるき遍路で安芸を通った時に寄って、改めてお礼を言いたいものです。

3月20日(水) 晴のち曇夕方雨

14日目

13日目

- 6時 開静(起床)
- 6時30分 粥座(朝食)
- 8時 「松野旅館」出立
天気がよく、のんびりと歩く。途中から曇って、風も出てきた。
- 12時 二十四番最御崎寺参拝
- 13時 室戸スカイライン入口で齋座
- 16時15分 二十六番金剛頂寺参拝、投宿
最御崎寺と金剛頂寺へはへんろ道が残っており助かった。徒歩はへんろ道を通るのが一番だ。
- 17時 開浴(入浴)
- 18時30分 薬石(夕食)
- 20時 解定(就寝)

29.5km

把住 0円、放行 4,300円

3月19日(火) 雨のち曇

- 5時 開静(起床)
- 5時30分 朝課(朝の勤行)
- 6時 粥座(朝食)
- 7時 鯖大師本坊出立
- 8時 海部駅前通過
- 10時 穴喰町にて小休止
今日は一日、歩くだけの日にしている。果たしてどこまで行けるか。また、泊まれるところが見つければいいが・・・。
歩くだけというのはしんどい。天気が良いと気分的に助かるが、今日はあいにくの雨。しかし、雨のほうが他に何も考えずにひたすら歩けるかもしれない。
- 12時 甲浦にて齋座(昼食)
- 14時 野根集落を通過
- 14時10分 伏越岬付近で小休止
穴喰で小休止した後、頗る調子が良い。足は、草鞋の紐のところはくぼんで、周りにはむくんでいる。みにくい。
生見のサーファーはずいぶんいた。寒そう。
- 17時30分 佐喜浜着、「松野旅館」泊
昨日、鯖瀬まで頑張った分、予定より遠くまで来れた。旅館も運よく見つかった。いい日だ。
昔はかなり立派な旅館だったらしい。床の間、違い棚もある。
- 18時 開浴(入浴)
- 19時 薬石(夕食)

37.5km

把住 0円、放行 5,800円

3月21日(木) 雨のち曇夕方晴

15日目

- 5時30分 開静(起床)
- 6時 朝課(朝の勤行)
- 6時30分 粥座(朝食)
- 7時15分 金剛頂寺出立
- 8時30分 不動岩にて小休止
- 10時45分 海岸で小休止
岩場でアワビがとれるそうだ。サンダルばきのおじいさんがアワビを探していた。
- 13時30分 奈半利町で齋座(昼食)
なかなか食堂がなくて困った。やっと見つけた食堂では、お彼岸の中日なので、まんじゅうと草もちを売っていた。あまりうまさうなので、まんじゅう2個と草もち1個食べた。
- 15時15分 神峰寺のほり口の「浜吉屋」着
投宿を頼んで、荷物を置いて出立。久しぶりの山道だ。振り返ると海が一面に広がる。今まで歩いてきた海岸線もよく見える。
- 16時15分 二十七番神峰寺参拝、まんじゅうのお接待
気持ちのいい山寺だ。お茶とまんじゅうのお接待をいただく。まんじゅうづいて3個目だ。
- 16時45分 神峰寺出立
- 17時30分 「浜吉屋」着
- 18時15分 開浴(入浴)
- 18時45分 薬石(夕食)
- 20時 解定(就寝)

29km

把住 0円、放行 4,700円

3月22日(金) 快晴

16日目

- 6時30分 開静(起床)
- 7時 粥座(朝食)
- 7時30分 「浜吉屋」出立
- 8時 安田町で托鉢(9時15分くらいまで)
- 11時 安芸市下山で小休止
- 12時 安芸市伊尾木、川北地区で托鉢
- 12時45分 齋座(昼食)
- 13時15分 引続き安芸市内で托鉢
途中海辺で休んでいたら、近くのおばあさんが今夜泊めてくれるという。ご好意に甘えることにする。
- 16時40分 托鉢を終える
- 17時 お接待で宿泊させてくれるお宅に伺う
安芸は人口2万5千人くらいだそうだが、結構商店街が続いていた。托鉢に疲れた。
- 18時30分 薬石(夕食)
- 19時 開浴(入浴)
- 20時30分 解定(就寝)

29km

把住 12,795円、放行 550円

明日はここから安田町まで戻って托鉢。それから安芸市行って托鉢の予定。今までまとまった町がなく托鉢をしないなかつたが、放りが蓄むこともあるので、明日からは托鉢をしながら行くことにする。

室戸までの道はまちなく、道路と海と山の世間界だった。室戸から高知までは町もありそうだ。室戸を過ぎてからは、土地が明るい感じがする。

22日目

3月28日(木) 晴

6時 開静
 7時 粥座(朝食)
 7時30分 旅館出立
 9時20分 七子峠で小休止
 12時15分 三十七番岩本寺参拝
 12時30分 斎座(昼食)
 13時 窪川町出立
 14時45分 佐賀町橋川のバス停で小休止
 17時30分 佐賀町内に入る
 17時45分 旅館着、開浴(入浴)
 18時30分 薬石(夕食)
 今夜はギョーザを食べさせてもらった。
 うまかった。
 20時30分 解定(就寝)

57.3km

把住 0円、放行 4,950円

21日目

3月27日(水) 雨のち曇 朝は土砂降り

6時30分 開静(起床)
 7時20分 粥座(朝食)
 8時 出立
 11時15分 浦ノ内で小休止
 12時45分 多の郷で斎座(昼食)、雨アガル
 13時15分 出立
 14時 新莊川で小休止
 16時 青木崎にて小休止
 17時 中土佐町の旅館着、宿泊
 17時15分 開浴(入浴)
 17時45分 薬石(夕食)
 夕食は一品サービスしてくれて、ボリューム満点でうまかった。

約28km

把住 0円、放行 5,250円

23日目

3月29日(金) 晴のち一時曇

5時30分 開静(起床)、出立
 9時40分 鞭海岸で小休止
 広い砂浜が続く。天気も良く、今日は暑い。日差しもきついほどだ。
 12時30分 斎座(昼食)
 13時 中村駅前着
 13時30分 中村市内で托鉢
 15時 四万十川の堤防で小休止
 托鉢途中から曇る。川辺は風が強い。
 15時30分 引続き托鉢
 16時 民宿着、宿泊
 18時 開浴(入浴)
 18時30分 薬石(夕食)
 20時 解定(就寝)

24.5km

把住 4,353円、放行 3,970円

25日目

3月31日(日) 晴

5時30分 開静(起床)
 6時 朝課(朝の勤行)
 6時30分 粥座(朝食)
 7時10分 金剛福寺出立
 9時40分 中ノ浜で小休止、手が冷たい
 11時 土佐清水市内托鉢
 13時 足摺港で斎座(昼食)
 15時20分 竜串着
 15時40分 下山口着
 16時10分 竜串、藤井寺ユースホステル着、宿泊
 下川口に旅館があったが、今はやっていないとのこと。仕方なく竜串まで戻った。
 18時 開浴(入浴)
 18時30分 薬石(夕食)
 薬石後、わらじ作り。今まではいていたのは今日で5日目だ。予備の草鞋が、紐が足りなくてできていなかった。今までの草鞋を分解して予備の草鞋を完成させ、明日からそれをはくことにする。
 20時30分 解定(就寝)

31.9km

把住 5,240円、放行 3,310円

3月30日(土) 晴

5時30分 開静
 6時30分 出立
 7時45分 四万十川河口で粥座(朝食)
 14時10分 足摺半島窪津で斎座(昼食)
 今日は一生涯歩いている。足摺は素晴らしい所だ。
 三十八番金剛福寺参拝
 16時15分 金剛福寺宿坊へ
 大きく真新しい宿坊だ。
 よく歩いた日だ。中村駅前の民宿のおばさんが52kmあると言っていたが、そんなにないだろう。予定より早く着き、ほっとした。
 足摺に入ってから、前会った坊さんとまた会った。どう回ってきたのか、すれ違った。おそらく、中村まで戻って延光寺に行くのだろう。
 17時45分 開浴(入浴)
 今日、朝も昼もパンだったので、薬石が楽しみだ。粥座は早朝出立のため、前日パンを買っておいた。斎座は、運悪くうどん屋さんがあるような集落がなく、仕方なくパンにした。
 18時30分 薬石(夕食)
 20時 解定(就寝)

43.5km

把住 0円、放行 2,980円

今思えば...圓福寺の四国あるき遍路の旅と歩いた距離を比べると段違いです。しかも、途中で托鉢をしながらです。やはり雲水ながらの歩きになっていよう。そして、足の痛みが取れた後は、山越えでつらかったなんてどこにも書いてありません。さすが、若いです。

め日場月もなたてだぶ今日
 ので高修明も強かいたてん寒はず
 の打知行の日かっしててん寒はず
 のおちも道から。明日風た冷い日
 のさ明道。明日風た冷い日

穴川風土記



寺から半里

〜わが町かど探索〜

園生町 熊倉 浩

番外編



夫婦坂事件

JR都賀駅は附近の人口が増えるにしたがい都市化されたために新設された駅である。それまでは信号所であった。列車は止まるが、プラットホームはない。出札口も改札口もない。単線を走る列車が待ち合わせするため少数の係員がいるだけの客扱いしない施設である。上り（下り）の列車が信号所で停車し待機して、下り（上り）列車が来てから発車する。旧国鉄時代は複線が少なかつたので全国いたるところで見られた。

早朝始発列車が銚子方面からやってくる。下り列車を見送ってから発車するSLの汽笛が朝靄をついてこの穴川まではつきり聞こえたもの



バトントッチ
した逓送夫手
塚林平を警護
同行したのは

だ。直線距離で約3km、原野と田畑だけで高い建物など一つもなかった頃である。

さて明治の初期は銀行から銀行にお金を回送するには逓送夫と称する夫が背負って歩いて運んだ。今は防弾チョッキで身を固めたガードマン付きの現金輸送車である。

時は明治二十三年春四月四日のこと、佐原の銀行（支店）から千葉の本店に大金の国庫金を回送することになった。途中区域ごと受け持ちが決められ警察官が逓送夫に付き添って警護にあたった。佐倉で前任者から

佐倉警察署鈴木清助巡査であった。佐倉を発ち四街道まで来ると後ろに付かず離れずの六尺の大男。鈴木巡査は怪しいと思ったが、一人なのでお巡りさんと一緒なら安心して旅が出来ると言う男の言葉を信用した。しかしどうも言動が曖昧なので官金強奪を企てているに違いないと察した鈴木はサーベルの柄を握ったまま万一の事態に備えて歩いた。

陽が落ちたころ都賀村原（現若葉区西都賀）の夫婦坂にさしかかったとき男は突然拳銃で鈴木巡査目に向けて発射した。弾は巡査の腰部に命中した。その場に倒れて当然なほどの重傷にも拘らず、刀を抜いて男に立ち向かった。男は更に三発発射し一発は左上腕部にあたったが屈せず男を追いかけ遂に茶畑に追い詰め一刀を左肩に浴びせた。さらに二の太刀を下ろそうとしたが、昨年の賊もこいつに違いないと直感した鈴木はサーベルを捨てて男に組みつき捕縛にかかった。そして組み伏せて拳銃をもぎ取ろうとした瞬間拳銃が発射し今度は鈴木の下腹部に命中した。激痛にも屈せずとうとう捕縄を掛けることが出来た。鈴木は剣もさるこ

とながら柔道は確かな腕前であつた。

もう九時を過ぎた。突然雨になつた。夫婦坂は降ると馬車は勿論人も歩けないような道となる。いま想像も出来ない昼なお暗く大木が繁つた細い山道であつた。鈴木は一軒の農家で警察への知らせを乞いその間犯人を押えつけていた。逋送夫はさきに一目散に千葉へ向けて走りこつた。次第を警察署に急報していた。やがて千葉から署長が巡查七、八名を連れてやってくるとサーベルを握つたまま「神色自若」としている鈴木を見て皆一様に驚いたと記録は伝えている。

重傷の鈴木は県立千葉病院（当時）に収容された。直ちに佐倉署に通報されて妻よ祢よねに知らされた。よ祢は職務のためなら仕方ありませんと答え、賊は捕まえたと言うとそれなら安心ですと氣丈聡明に答えたといふ（この間略）。

病院では鈴木の内体に入った弾の摘出にかかったが深く骨に食い込んでいて不可能であつた。しかし意識は明瞭で関係者に事件経過を詳細に報告することが出来た。

ところが四月七日容態が急変。鈴

木は死を自覚したか「もうお暇いたします。職務で斃れるのは本望、これで永訣です」と合掌して息を引き取つたといふ。三十一歳、壮烈な殉職であつた。

亡骸は佐倉に送られ葬儀は鈴木家の菩提寺・延覚寺（現佐倉市新

町）で執り行われた。官民六百八人が会葬、沿道の町民数千人と伝える。延覚寺を入るとすぐに鈴木巡査の墓がある。墓前の説明文はコラムをお読み願いたい。（原文縦書き）
鈴木巡査は犯人逮捕の功によって即日巡査部長に昇進、特別賞与金よねが下賜された。夫の殉職を知るやよ祢は悲嘆のあまり病に伏せてしまった。そして僅か十日後、夫の後を追うように前年誕生した愛児を残したまま忽然と世を去つた。二十二歳の

故 千葉県巡査部長 鈴木清助氏 略伝

氏は桜町裏新町の士族、鈴木羽右衛門の四男として万延元年（一八六〇）四月二十八日、佐倉城下袋小路にて生まれる。その後、地元の鹿山学校（現佐倉高校）に学ぶ傍ら経学、水練術、劍術柔術を習い特に柔術は楊心流の目録を受け、当時戸塚門下四天王の一人に称された。

明治十五年十一月千葉県巡査となり、同二十一年十二月佐倉警察署在勤、日夜職務に精励し大いに囑望された。

そして明治二十三年（一八九〇）四月四日、川崎銀行佐倉支店からの国庫金護送の際、夫婦坂（千葉市若葉区西都賀）にて強盗犯に銃で襲われ、瀕死の重傷を負いながらこれを捕縛、敢然として責務を全うした後、壮烈な殉死を遂げた。

この功績により即日、巡査部長に昇進、県知事から特別賞金が贈られた。また、故人の遺徳を称え全国から多数の義捐金や書簡が届けられた。

享年三十一歳



山縣有朋蒙額の彰功碑・旌烈之碑



鈴木清助殉職碑(若葉区西都賀)

若さであった。

はにゆうぐん

犯人は埴生郡(現成田市)の浅野という男で山鹿流兵法を身につけた大男であった(詳細略)。この前年に起こった官金強奪事件もやっばりこの浅野が犯人であった。捜査の結果拳銃の入手経路も分かった。千葉の裁判所で死刑判決。大審院に上告したがここでも死刑が下された。

佐倉町民によって義捐金を募り翌明治二十四年墓の傍らに彰功碑「旌烈之碑」が建てられた。総理大臣山縣有朋の篆額、元千葉県知事石田英吉の撰文による立派なものである。碑文に眼をやったが漢文で難解かつ長文なので一行でやめた。あれから四十七年経った昭和十一年、四十七回忌にあたり千葉県警

よって鈴木の仕事が不朽ならしめるため現場の夫婦坂に「千葉県巡査鈴木清助殉職碑」を建立した。近年区画整理のため位置が若干移動はしたものの旧佐倉街道・夫婦坂にそれは立っている。

裏に回って碑面を読む。これはカナ混じり文語体なので容易に読めた。昔の碑文はこれもそうであるがなかなかの名文と思った。ただ余りにも大きな碑なので頸と肩が暫く痛かった。

碑の前に立ち鈴木巡査の殉職に思いを致すとき、警察官にあるまじき不祥事が年ごとに増えているという現状にやりきれない気持ちに陥るのであった。碑前には新しい花が手向けてあった。

隣接して西都賀の町会集会所がありたまたま居合わせた町会役員と思しき人に碑の話を知ろうとしたところ、われ関せず知らずという返事。説明板はないもののわざわざ裏に回って碑面を読む人もいないのだろう。僅か一二〇年前の出来事が地元の人々からも薄れそして忘れつつあ



ることを嘆いた。

後日談がある。鈴木巡査の事績と壮烈さを讃え日本中が湧きに湧いた。その年早くも浪曲本「みにかかるむくのしらなみ

身加々留報白波」が出版され好評で第二編、第三編と続いた。また「しんはんちばのみちめおとぎか

新板千葉道女男坂さんぞく一ツトセ一節」が出版された。さらに芝居

「夫婦坂輪廻の絆」が盛んに興行され人気を博したという状況であった。

警察では冊子「官金送り一鈴木巡査忠烈美談」と絵葉書を作り全国の警察と県内の各学校に配布。そして「殉職美談・誉れの夫婦坂」の浪曲まで演じられ好評だったという。これはコロナピアからレコードとなつて一般に販売されこの賑わいぶりには沈静する気配がなかったと伝えられている。

調べるうちにそうだったのかとただ驚くばかりであった。わずか一二〇年前のことである。

「津洲」露崎「夫婦坂輪廻の絆一警察官の亀鑑巡査鈴木清助伝」

平十二年(自家版)

「続・寺から半里
一一わが町かど探索」終わり

(5月の「園だより」から)

アナログ体験

幼稚園やお寺の仕事で、インターネットバンキングを使っていました。わざわざ出かけなくても、もの



数分で振込が済んだり、口座の取引明細を確認することができたりしました。

ところが、くだんの火事のために、IDやパスワードが分からなくなったり、承認番号なるものが分からなくなったりして、当座の買入物の銀行での支払いは、坐ったままできなくなり、銀行まで足を運ばなければならなくなりました。ATMの機械で振込ができるのだらうと高をくくっていたら、口座からの振込しかできないところがあったり、現金での振込は窓口に限られていたり、あちこち銀

行を回って、2時間もかかってしまいました。

それまでインターネットバンキングという時代の最先端で仕事をしていたのに、急にそれができなくなつてアナログな仕事を強いられたとき、突然と文明の外に追いやられたような気にさせられました。

これは、現代の子どもたちも同じような気がしました。スイッチ一つで電気がつき、お風呂も沸き、ご飯も炊け、室内温度も快適にできる生活を当たりまえにしています。そんな便利な生活をしている時に、突然、ガスや電気の供給がストップしてしまったときに、どうやってご飯を炊くだろうか、どうやって明かりを手に入れるだろうか、どうやって飲み水を口にできるだろうか。まずは備蓄の食料でしのいで、そのうちガスや電気も



復旧するだろうとは思いますが、火を起こす、焚き木を手に入れる、たき火をするなどのたくさんのアナログな経験があるとないでは大違い。その経験があればこそ、いろんな工夫も考えられるし、もちろん行動を起こすこともできるのだと思います。これこそが、本当の生きる力と言えるのではないのでしょうか。



ということ、子どもに限らず、どれだけのアナログな経験をしたかで、危機を乗り越えられるのだと思います。ゴールデンウィークに、子どもたちにアナログな経験をさせるのも有意義かもしれません。

ID、PWなんて、危機管理しているのが当然と言われればそれまでですが、子どもたちの成長の危機管理も忘れないようにしなければなりません。

(7月の「園だより」から)
機械の目、大人の目



幼稚園の道路側に監視カメラを設置しました。お寺にも、監視カメラをつけました。お寺の方は以前から言われていたのですが、だれがお参りに来たなんていうことを監視したくないと思って、設置をしないで済みました。

監視カメラを設置することで、だれが手水鉢の樋を壊したのかも一目瞭然です。自分が悪いことをしたと謝ってくるのをずっと待っていたのですが、残念ながらそれもかなわなくなりそうです。

先日、タクシーに乗せられることがありました。助手席のフロントガラスにカメラのようなものがあったので、今はやりのドライブレコーダーだと思ったら、乗客を記録するカメラでした。車内という密室での犯罪予防のために取り

付けているようです。それ以外にも、私たちの身の回りには、カメラがたくさんあります。このドライブレコーダーといった車載カメラや、お店の防犯カメラ、インターホンもカメラ付だったり、携帯やスマホもカメラ機能が充実しているし、私たちは常に監視されているようです。

子どものいたずらや冒険は、大人の目を盗んでといいますが、もはやすべてが白日の下にさらされたような状態ですから、そんな子どもらしさや子どもの特権も取り上げられてしまうのかもしれない。



かつては、たくさんの大人の目の中で子どもたちは育ち、そして善悪も身につけていたような気がします。そして、大人も常に監視しているのではなく、ときには大目に見てやるとか、見て見ぬふりをするということがありました。何も言われなかったからラッ

キー!ではなく、そうされることで、子どもながらに自分で判断しなければならなかったような気がします。大人が、子どものことを手に取るようにわかっていたんだなあと、今ごろ気づきます。



ところが、機械の目ではそうはいきません。白か黒か、やったかやらないか、誰がいたか、誰が通ったかは明らかにわかるでしょうが、大目にみるとか見て見ぬふりをするといった人間らしさはなくなるような気がして仕方ありません。

とはいえ、子どもたちの安全のために、こちらにも仕方ありません。せめて、保育室に監視カメラをつけるなんていう時代にならないようにと願っています。信頼して入園させた幼稚園や保育園を疑うことになりかねませんか・・・。

平成28年年回表

百回忌	五十回忌	三十三回忌	二十七回忌	二十三回忌	十七回忌	十三回忌	七回忌	三回忌	一周忌	回忌
大正六年	昭和四十二年	昭和五十九年	平成二年	平成六年	平成十二年	平成十六年	平成二十二年	平成二十六年	平成二十七年	亡くなった年

法要の会場として、境内入口の「大師堂」が使用できます。お参りの方はすべて椅子席で、十四～十五名ほど着席できます。お気軽にご相談ください。

写経会

般若心経を写経いたします。大きめな字でお手本が印刷された、とても書きやすい写経用紙を使用しています。お道具の準備から毛筆の基礎なども親切にご指導いたします。

【前期期日】

- 二月七日
- 三月六日
- 四月三日
- 五月八日
- 六月五日

【後期期日】

- 七月三日
- 八月七日
- 九月四日
- 十月に日
- 十一月六日

【時間】

午前十時～十二時

【会費】

一期五回で、花園会員三千円
会員外 五千円

【講師】

齊藤 加代子先生・住職

【用意するもの】

小筆、硯、墨、半紙

【定員】

二十名

【申込】

お寺までご連絡ください。



土曜会

この集まりは、圓福寺にご縁のある人が、各種体験などをしながら懇親・談笑する自由空間です。たくさんの方の縁が広がります。

【期日】

- 一月十六日(土) 花園会新年会
- 二月十三日 仏教シアター
- 三月(未定) 春彼岸法話会
- 四月十六日 歩禅会
- 五月十四日 市原ボランテラ
- 六月十一日 歩禅会
- 七月二十五日 歩禅会
- 八月二十七日 禅童会お手伝い
地藏盆お手伝い

【会費】テーマイベントの後、懇親会

花園会員 男性 二千円

花園会員 女性 千円

花園会員外 男性 三千円

花園会員外 女性 千円

【申込】

詳細は、行事ごとにご案内いたしますので、奮ってご参加ください。

平成二十八年
年間行事予定

5月	4月	3月	2月	1月
17日	8日	25日～27日	5日	1日～3日
第四十回 花園会ゴルフ大会	降誕会(花まつり)	春彼岸 冬の寺子屋 和尚と滑ろうin苗場	涅槃会 お釈迦様のお亡くなりになった日。涅槃図の掛け軸を掛けて法要をします。	新年修正会 16日 花園会新年会 仏教興隆・国家安泰・五穀豊穡・檀信徒各家の繁栄などを祈禱する法要をしています。この修正会で祈禱した「般若札」は、寺報・カレンダーなどと一緒に、みなさまにお届けいたします。 二十四ページのご案内をご覧ください。

10月	8月	7月
18日	27日	10日
第四十一回 花園会ゴルフ大会 禅宗初祖「達磨大師」の「命日」。	地藏盆 子どもたちの楽しいお盆の行事です。夜店や野点・ゲーム大会などで盛り上がる夜祭りです。併せて、地藏盆の法要で水子・ペット・人形供養も行います。	山門大施餓鬼会 この日は、初盆のほけさまはじめ檀信徒各家のほけさまの施餓鬼会をいたします。あらかじめご案内を差し上げます。
5日	9日～16日	11日～16日
達磨忌	八月盆の棚経 八月盆のお宅に棚経にお伺い致します。	七月盆の棚経 七月盆のお宅に棚経にお伺い致します。
		25日～26日 圓福寺寺子屋 「禅童会」 子どもたちの坐禅会です。坐禅だけでなく、楽しいゲームやいろいろな体験もできます。たくさんの方の参加を待っています。



釈迦苦行像【圓福寺蔵だったが、焼失】

12月	11月	10月
17日	8日	23日
歳末ボランテラ 花園会忘年会 お釈迦様がお悟りを開かれた日です。	成道会 18日～20日 市原別院収穫祭 三巡目の第一回 四国あるき遍路の旅	涅槃精舎毎歳法要 永代供養の方々の法要と、生前戒名のお授戒をする「布薩会」を併修。
		23日
		土曜会「涅槃寄席」



——圓福寺では、毎年、和やかな楽しい新年会をしております。たくさんのお越しをお待ちしております。

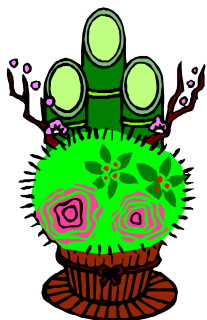
圓福寺とご縁のあるみなさんは、千葉という地域柄、全国各地のご出身の方がほとんどです。北は北海道、南は九州沖縄までという決まり文句の通りです。

石川啄木がふるさとの訛りを上野駅に聞きに行きましたが、圓福寺の新年会に来れば、全国のお国言葉を聞くこともできます。

どうぞ、お気軽にお寺の新年会にお出かけ下さい。



平成28年
西暦2016年
仏暦2559年



- 河西達雄
- 福田和夫
- 平山 実
- 塩月高泰
- 菅野光夫
- 稲田陽英
- 高橋敏勝

圓福寺住職

宮田宗格

圓福寺花園会

日時 一月十六日(土)

午前十一時 新春ご祈禱

正午 新年懇親会

会費 三千円

(ご祈禱料、お守り、お膳・飲み物代を含みます。)

会費は当日受付です。

申込 電話・ファックス・メール

などで、お寺までご連絡下さい。